

南が丘地区安全パトロールの会（三重県）

団体の概要

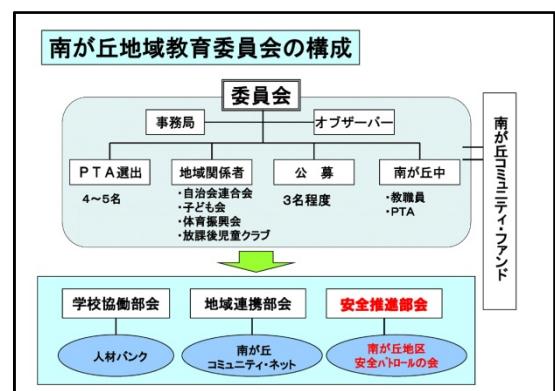
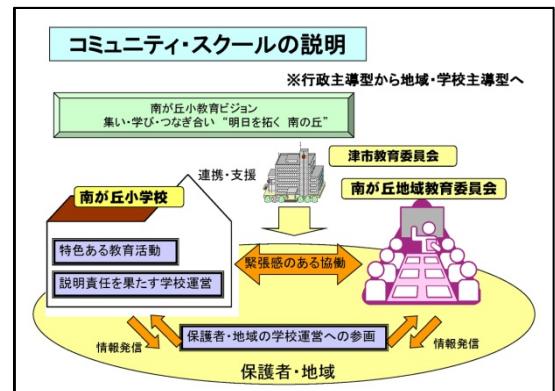
南が丘地区安全パトロールの代表をしております中島と申します。

私たち南が丘地区安全パトロールの会が活動しています津市は、三重県の県庁所在地で、あり、人口約 28 万人の伊勢湾に面した臨海都市でございます。南が丘地区はその津市の中心部にあたる新興住宅地で、1つの小学校、1つの中学校があり、学校の校区内には現在約 3,800 世帯、人口が約1万 1,000 人居住しております。



活動の拠点であります津市立南が丘小学校は、団地が開発された平成4年に開校されました。開校当時の児童数は 447 名、今年で 20 周年を迎えた比較的歴史の浅い学校です。現在、児童数は開校当時の約2倍の 850 名で、津市内では一番児童の多い大きな学校です。

学校開校後 10 年を経ました平成 14 年には、文部科学省から「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究校」、通称「コミュニティ・スクール」としての指定を受けました。それを契機に文部科学省の指導により、津市の教育委員会とは別に学校運営に対して一定の権限と責任を持って参画できる、地域の住民が主体となった教育委員会が設立されました。その教育委員会の名称は「南が丘地域教育委員会」と言い、当時、全国で9校がコミュニティ・スクールの指定を受けました。現在は、全国で約 800 校がそのコミュニティ・スクールの指定を受けていると伺っております。この南が丘地域教育委員会は、PTA、自治会、一般公募、南が丘中学校のそれぞれの代表者で構成されており、現在 15 名で運営しています。委員会の下に、学校協働部会、地域連携部会、安全推進部会という3つの部会が構成されており、部会を中心にそれぞれ活動しています。委員会が設立され、本格的な運営がスタートした平成 15 年以降、全国的に児童が被害者となる悲惨な凶悪事件が多発しておりました。それら現状を踏まえ、委員会では「児童の安全確保」を最重要課題と捉え、児童の安全を守ることを目的としたボランティアによる活動団体を立ち上げることとしました。そして、連合自治会組織を通じて地域住民に対し、ボランティアの参加を呼びかけた訳ですが、当時はなかなか賛同を得ることができませんでした。そんな

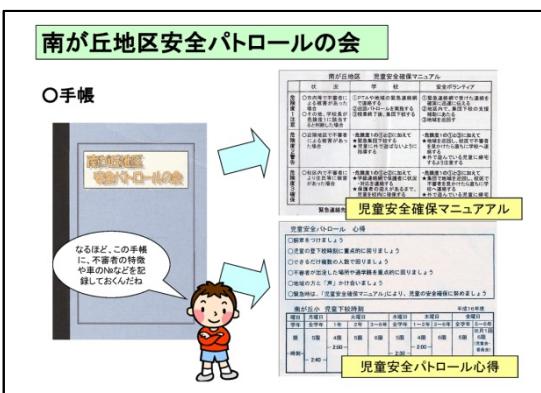


中、奈良県で小学1年の女子児童が下校途中に誘拐され殺害されるといった悲惨な事件が発生しました。平成16年10月のことです。この事件以降、地域の住民たちは次第に、ボランティア活動の重要性を理解してくれるようになり、ボランティアへの参加希望者も増えていきました。その後、警察の支援を受けまして防犯講習会を数回実施し、平成16年12月8日、安全推進部会の下に、南が丘地区安全パトロールの会が結成しました。発足当時の会員は26名でした。

活動内容

会員は、地域会員とPTA会員に分かれています。地域住民による地域会員は現在約40名、PTA会員は約660名です。両者合わせまして約700名に上りますが、校区内が広いため、地域を6つに分け、会員を6班編成にして活動しています。

活動時の服装ですが、平成18年に警察庁から「地域安全安心ステーション」のモデル事業地区として認定され、無償貸付のジャンパー、帽子などを統一ユニフォームとして活動しています。ただ、これだけでは数が足りませんので、独自で購入したジャンパーのほか、腕章や名札も着用しています。目立つた服装で活動しています。



また、パトロール時の携行品として、大半の方が持っている携帯電話のほか、こういった「手帳」の携帯を義務づけております。手帳は活動中の出来事をメモするものです。例えば、不審車両に出くわした際、少しでもおかしいと感じたら、その車両のナンバーや運転手の特徴を書き込むことなどに活用しています。その以外の活用方法として、学校と団体で協議して作成した「活動時の心得」「緊急時の対応マニュアル」といったもののほか、「児童の下校時間帯」を手帳に記載しておくことで、児童の下校時間も把握することが出来ますし、緊急時にどのような対応を取ったらいいかが事細かく分類しておりますので、パトロール活動時のバイブルとしても活用しています。



次に通常時の活動について説明します。通常時、地域会員は児童の登校時間帯である午前7時20分から8時20分ごろまで、下校時は日によって異なりますが、おおむね午後2時半から4時ごろまで、自宅近くの通学路で子どもの見守り活動を行っております。中には自転車で巡回をしている方もおられます。その間、PTA会員はと言いますと、登校時は自宅の前へ出て子どもが見えなくなるまで見送る、下校時も同じく、帰る時間帯がわかつておりますから、5分ぐらい前から家の外に出て迎えるとい

った無理のない活動を実施しております。このように見せる活動を継続的に実施することで、不審者を寄せ付けない地域づくりに取り組んでいます。

次に緊急時の活動ですが、不審者が出没した際には、学校からその都度、地域会員やPTA会員の

携帯電話にメールを発信しております。先程お見せした手帳にも記載しておりますが、事案の内容に応じて危険度を指定されており、会員らはその危険度を基に対応を執ることとしております。緊急性が低いものから順に、1から3の危険度が指定されており、例えば、校区内で不審者による負傷者が出了した時などは危険度3に該当します。そういったメールが配信された際には、地域会員は学校に駆けつけ、教職員らとともに児童の集団下校の引率や保護活動を行うこととしています。その他、地震などの災害に備え、年に3回、毎学期の初めに地区別の一斉下校訓練を行っています。

通常時の活動は当番制、割り当て制といったものではなく、各自の自由としています。よって参加者の多い日もあれば少ない日も出てきますので、活動にメリハリをつけるため、毎月5の付く日、5、15、25日の3日間を「レッツゴー」の「ゴー」にちなみ、「南が丘地区安全5の日」とネーミングし、活動の強化日として取り組んでいます。この日は地域会員やPTA会員のほか、教職員や警察官にも警戒活動に参加していただくなど、地域が一体となって顯示力を示す、不審者を校区内に寄せ付けない環境づくりに取り組んでいます。また、5の日が土曜日、日曜日、祝日の場合は翌日に繰り下げるやっています。

児童に対する警戒活動のほか、警察と連携して、とりわけ低学年の児童に対し、正しい横断歩道の渡り方や雨天時の歩き方や自転車の正しい乗り方といった指導を年に1回程度実施しています。

広報啓発活動



地域教育委員会では、毎学期に2、3回、「子どもがいちゃん」という広報紙を発行しています。また、小学校でも「学校だより」という広報紙を発行していますが、いずれの広報紙にも校区内における不審者情報や私たちの活動状況、学校行事等を掲載し、地域の約3,800世帯に回覧方式で配布しています。したがいまして、南が丘小学校に在籍する子どもがいない世帯でも、学校のことや子どものこと、私たちのボランティア活動につ

いても把握、理解をしてくれております。

警察庁から「地域安全安心ステーション」のモデル事業地区として認定していただいた際、広報啓発用のポスターとリーフレットをいただきました。ポスターは自治会の掲示板や駅などに掲示ましたが、リーフレットは 300 枚ばかりあって、どのように配布したら効果的な広報になるか悩みました。そこで私どもは、リーフレットに「南が丘地区安全パトロールの会」の連絡先を入れ、ラミネート加工したものを校区内の飲食店のテーブル上や医院の待合室のほか、街角でよく目立つお家の門扉にも掲示していただくようお願いしました。とても広い校区ですが、300 枚のリーフレットを校区内全域に掲示することで、それを見た地域住民らの防犯意識の高揚を図ることができ、話題としても広めてもらうことができる。そういう意味では非常に効果的な広報活動を実現することができました。



その他の活動



常に情報の共有化を図るため、研修会を年2～3回実施しています。また、防犯設備士を招へいし通学路や公園、空き地等の危険箇所の点検を年2回実施しています。点検結果は危険箇所マップを作成し、データベース化して各世帯へ回覧板等を通じて周知しています。また、樹木によって見通しが悪くなっている交差点や公園のほか、比較的暗い道路における街路灯の設置などについては、行政等に働き掛けを行い、その都度改善してもらっています。写真を御覧下さい。以前は非常に見通しの悪い交差点でしたが、樹木を伐採するなどして改良した結果、このように見通しが良くなり、安全性が確保された事例であります。

平成13年に発生した池田小学校事件を踏まえ、南が丘小学校の校門付近に防犯カメラを設置しました。受像器を教職員の部屋に置いて、常にチェックしています。また、教職員や保護者、住民からの要望や過去の不審者情報を基に、防犯設備協会に対し、防犯カメラの設置について働き掛けを行っていたところ、昨年9月に通学路で一番の危険箇所とされていた地下道への設置が実現するなどが出来ました。



今後の課題

悩みの種はたくさんあります。まず、班分けした地域によって防犯活動への関心度に幾分温度差が受けられることが挙げられます。また、休日、夏休み時の子どもの安全確保や地域会員の高齢化、PTA会員の実働化にも問題があると思っています。PTA会員は約660人と非常に多くの方々が参加

をしてくれていますが、共働きの家庭もたくさんありますので、班によっては参加率が思わしくないこともあります。平成 16 年に結成して以降、団体の規模拡大に向け、積極的に広報活動等を実施してきた結果、大きな団体を築き上げてきたと自負しておりますが、会員を増やし続けることが全て良いことかと言いますと、決してそうとは言いきれません。既存会員の中には、「誰かがするだろう」と他の会員に頼る気持ちが芽生え、結局以前の実働員より少なくなってしまったこともあります。今後としましては、会員の積極的な参加を求めながら、次世代に続く働き盛りの地域会員の獲得を目指していきたいと思います。



最後となります、毎年、子どもたちは私たちの活動に對して、子どもが主体となった感謝祭を開いてくれます。子どもたちは私たち会員一人一人に声を掛け、感謝状を手渡してくれます。そういった子どもたちの心優しい気配りとその笑顔が、私たち会員の活動源となっております。地域の宝でもある子どもたちをあらゆる犯罪から身を守るために、GPSなどを使った近代的な機能を用いた防犯対策も重要であろうかと思いますが、未然防止という観点からは、地域住民、学校、警察、ボランティア団体などが

総ぐるみとなって、犯罪の起きにくい街づくりを形成していくことが最も効果的ではないかと思っております。私たちは子どもたちの笑顔と地域からの感謝を心の支えとして、地域に子どもたちがいる限りこの活動を続けていく所存であります。

質疑応答

●質問 パトロールをする際にパトロール手帳等を携行しているとお聞きしましたが、過去に手帳を活用した効果的な事例や役に立った事例はありましたか。

○回答 活動して7年6ヶ月が経ちます。記録したメモを端緒として地域で出没した不審者を警察に捕捉してもらった事例も何度かありました。何時、不審者が出来するかは分かりませんので、平素から、どんな些細な事でもメモをすることに心掛けております。